



Coca-Cola

CSRレポート 2013

北の大地とともに

つながる
北海道

北海道コカ・コーラボトリンググループ

つながる50年

- つながる Action 1 北海道の豊かな水環境
- つながる Action 2 かけがえのないふるさとを守りたい
- つながる Action 3 子どもたちの「もっと」に応えたい
- つながる Action 4 素敵な未来へ向かって、企業や地域がつながる



これまでの50年から学んだこと
これからの50年へ伝えたいこと



北海道生まれの道産子企業として、
私たちは地元のみなさまとつながりながら
北海道の元気を応援するための
さまざまな取り組みを進めています。



3 つながる北海道
北海道コカ・コーラボトリンググループ
つながる50年

- 5 つながる Action 1 環境・水の循環
途切れず、つづける。次世代につなぐ。
北海道の豊かな水環境
- 7 つながる Action 2 安全・安心ネットワーク
かけがえのないふるさとを守りたい
- 9 つながる Action 3 子どもたちの笑顔に応援！
子どもたちの「もっと」に応えたい
- 11 つながる Action 4 北海道をもっと元気に！
素敵な未来へ向かって、企業や地域がつながる

13 環境コミュニケーション
新しい環境活動のかたちを求めて

15 環境負荷低減
技術の向こうに見える、エコの顔

17 環境会計
環境への影響を「見える化」として

19 地域コミュニケーション
ひとりひとりの元気のために

21 KORE

23 KORE
安全と安心をお届けするために

25 企業としての社会的責任
親しまれ信頼され続ける企業へ向けて

27 コカ・コーラシステムと北海道コカ・コーラボトリング
北の大地とともに成長する企業として

29 工場見学/プロフィール
「さわやかさ」を身近に感じてほしい



代表取締役社長
矢吹 健次
Yabuki Taketsugu

ごあいさつ
私たちは、北海道の緑豊かな大地に育まれた美味しい水と良質な原材料を使い、北海道にある工場で各種清涼飲料水を製造し、事業活動を展開しています。
北海道の地元のみなさまに支えられて、今年で50周年の節目を迎えることができました。これもひとえにみなさまのご支援とご愛顧のたまものと感謝しております。当社は、これからも地域密着の活動を進め、これからの50年を目指していく所存です。
そのためには、社員一人ひとりが自らのやるべきことをしっかりと見定め、これまで以上に北海道のお役に立てる活動をしていくことと考えます。このレポートをお読みいただいで、当社グループの考え方や活動に対し、より多くの方々のご理解・ご協力をいただければ幸いです。

2012



持ちやすく、小家族向けの「スマートボトル」

2012 3月：新マルチPETライン稼働開始
3月：道内全179市町村と防災協定締結終了
4月：北海道限定パッケージ「スマートボトル」の販売を開始

2010 7月：キャラクター「Qoo」が札幌市の食育特別大使に任命される
11月：函館市からキッズタウンスタート

2007 3月：北海道警察と「防犯ほっとインフォメーション」開始
6月：コカ・コーラ ゼロの販売を開始



「ジョージアサントスプレミアム」を通じて、北海道の環境保全活動を応援しています。

2006 4月：斜里町と知床世界自然遺産の保護に関する協定を締結（2007年5月羅臼町と締結）
6月：ジョージアサントスプレミアム知床デザイン缶の販売を開始
7月：「子どもの安全を見守る運動」スタート
9月：「CSRレポート」第一号発行
10月：「おしらせ道なっと」を開始
12月：「防災に関する協力協定」を北海道と締結市町村との防犯協定スタート



2005 1月：本社工場を「札幌工場」に名称変更
12月：CSR推進室設立（現：広報・CSR推進部）

2003 1月：本社新工場に無菌充填ラインを増設



2002 5月：コカ・コーラシステムとして日韓共催のサッカー FIFAワールドカップを全面支援
11月：本社工場に 立体自動倉庫を新設

2008 札幌市円山動物園、旭川市旭山動物園と協働の取り組みを開始



札幌市円山動物園と「環境協働事業に関する協定」を締結。同園内に「ネイチャーカフェ・アース」をオープンし、地元産食材や環境教育の場などを提供しています。

2009 1月：札幌市および清田区と「まちづくりパートナー協定」を締結
5月：ミネラルウォーター「い・ろ・は・す」の販売を開始
11月：「北海道e-水プロジェクト」の取り組みを開始



従来から札幌市清田区の水は良質であると定評がありました。「い・ろ・は・す」の水は、札幌工場で採水したものを使用しています。

2011 2月：全警察署と「防犯ほっとインフォメーション」協定締結終了
6月：札幌市と「環境事業に関する協定」を締結
9月：途切れず、つづけるCSRのシンボル 札幌市白旗山において、50年森づくりスタート
11月：帯広事業所が環境配慮型事業所としてリニューアル

1963

1月：北海道飲料株式会社として設立
3月：コカ・コーラおよびファンタの販売を開始
9月：商号を北海道コカ・コーラボトリング株式会社に改称
12月：本社工場竣工



札幌市清田区の田園風景の中に突然現れた延床面積約2,400㎡、鉄筋コンクリート2階建ての近代的建物は、その斬新なデザインと鮮やかな色彩で地域の話題を呼びました。

1972

2月：コカ・コーラ350ml缶の販売を開始
2月：第11回冬季オリンピック札幌大会に全面協賛・支援



アジア初の冬季オリンピックであり、世界35ヶ国の選手が参加したこのビッグイベントに、コカ・コーラシステムとして「世界は一つ、さわやかさも一つ」をテーマに全面的に協賛しました。

1966

4月：コカ・コーラホームサイズ（500ml）の販売を開始



1965

10月：コカ・コーラ250ml缶の販売を開始

缶入りコカ・コーラの登場は、レジャー時代に入り、持ち歩きに便利な缶製品のニーズが高まるとともに、空ビン返却のわずらわしさを選ばない消費志向にもマッチしました。

1970

先輩たちがつないでくれた北海道開発局との「道路を広く美しく」運動。

北海道コカ・コーラ
ボトリンググループ

つながる 50年

北海道コカ・コーラボトリンググループは、
たくさんの方々に温かく見守られ、
今年で50年という節目の年を迎えました。
私たちは、これからも
お客さまのニーズを反映した商品を販売するとともに、
人や地域社会、自然環境に「さわやかさとうるおい」を
お届けしたいと考えております。

1963



白旗山の森づくり活動



北海道の水を守るプロジェクトを進めています。

北海道の豊かな水資源と美しい自然環境を次世代へと引き継いでいくことを目的として「北海道e-水プロジェクト」を、2010年より北海道と（公財）北海道環境財団との連携のもと推進しています。

これは「ジョージアサントスプレミアム北海道限定デザイン」の売上の一部を、広く公募した北海道の水辺を守る団体の活動に役立ててもらおう取り組みです。各地域の団体がやっている水辺の観察会や清掃などのさまざまな活動には、当社社員も積極的に参加して、自然を愛する人と地域のきずなを深めています。



全道で「環境出張授業」を展開しています。

未来を担う子どもたちに水資源の大切さについて、楽しく学んでもらうため、全道の子どもたちへ環境出張授業「もっと知ろう！水のこと。」を実施しています。

この授業では国内外の水の飲み比べをはじめ、世界の水資源に関するクイズや地元の水についての豆知識などを通じて、地域から世界の水について考える機会を提供しています。



環境出張授業「もっと知ろう！水のこと。」



わくわく体験ランド北海道in白旗山



「北海道e-水プロジェクト」の活動

つながる **Action 1**
環境・水の循環

途切れず、つづける。次世代につなぐ。北海道の豊かな水環境

北海道の豊かな水環境を、次世代につなげていくために私たちは「いのち」を育み、水の自然を守るため循環型社会の実現を目指しています。

北海道コカ・コーラボトリンググループは50年間、北海道の豊かな水に支えられ、製品づくりを行ってきました。そして、これからも森づくりなどを通じて、この北の大地の素晴らしい水資源を守り育てていきたいと考えます。

50年かけて「森づくり」に取り組んでいます。

札幌工場で製品の製造に使用している水は、札幌市清田区白旗山を水源として長い時間をかけて育まれた地下水です。これからも美しい水を守り育てていくため、2011年に札幌市と「環境事業に関する協定」を締結しました。「白旗山の森づくり」として、「森に学ぼう」プロジェクトわくわく体験ランド北海道in白旗山がスタートしました。地域の方々と植樹活動や子どもたちとの自然散策などの取り組みを開始し、50年にわたり継続して森づくりに取り組んでいきます。

「山のがっこう」がプレオープンしました。

北海道コカ・コーラボトリング(株)の創立50周年記念事業の一環として、2012年11月、清田区白旗山において「山のがっこう」をプレオープンしました。北海道大学大学院の先生と学生、そして清田区や清田小学校との協働で、自然教室を開催し、参加した子どもたちは、森と水の大切な関係を楽しく学びました。



「北海道e-水プロジェクト」採択団体



ブロックを使った実験(山のがっこう)



自動販売機の「海拔表示」

かけがえのない ふるさとを守りたい

地域の安全・安心を守るための
広域ネットワークづくりを目指しています。

地域社会の「いま」を見つめ、その安全と安心を支えるために、当社はこれからも地域や自治体と連携して、地域を守る活動を幅広く展開していきます。

北海道全域の防災パートナーとして活動しています。

当社は道内全域をカバーする物流網を有することから、2006年12月より地域の飲料水備蓄基地の代行を柱として、道内全市町村を包括する「災害時における飲料の供給等防災に関する協力協定」を北海道と締結し、防災のパートナーとして北海道のライフラインの一環を担っています。

この協定に基づき、電光掲示板付き災害対応型自動販売機を活用した市町村との協働の取り組みを展開し、2012年3月には、すべての市町村との間に安全・安心のネットワークが広がりました。この自動販売機は、パソコンからのインターネットを活用した遠隔操作により、市町村からの地域情報や地域のイベント情報などを配信できるほか、災害発生時などの緊急時には自治体の判断で飲料を無料提供することが可能です。

子どもの安全を見守る 運動を推進しています。

当社は「大人だけが子どもを守る」ことができる」というコンセプトのもと、官民が一体となって、「子どもの安全を



札幌市防災訓練の災害救援物資輸送車



札幌市防災訓練の防災協力自動販売機



小樽防犯活動「小学生の防犯ポスター」

つながる
Action 2
安全・安心
ネットワーク

見守る運動」を推進することを北海道へ提案し、2007年に採択されました。現在、この運動は、さまざまな啓発要素を吸収して「安全・安心どさんこ運動」に発展しました。

2006年7月より、当社ではグループを挙げて全道の事業所と車両(約1,200台)にポスターやステッカーを掲示し、社員一人ひとりが日々の活動の中で子どもたちの安全を見守っています。また、釧路事業所では、全従業員が交代で子どもたちの通学見守りボランティアに参加しています。



「子どもの安全を見守る運動」のステッカー

犯罪被害者支援活動を 応援しています。

北海道・北海道警察・社団法人北海道家庭生活総合カウンセリングセンターと連携し、道内の「犯罪被害者及びその家族又は遺族」に対する犯罪被害者支援事業や、犯罪が減少する安全・安心なまちづくりに向けた活動を行っています。

全道の警察署に設置している自動販売機の売上の一部を同センターに役立てていただくほか、自動販売機に「被害者支援に関するポスター」を掲示しています。

自動販売機への「海拔表示」を 展開しています。

2011年3月11日に発生した東日本大震災以降、釧路市では津波に対する防災意識が高まりました。その後、釧路市や連合町内会と、地域防災についてのタウンミーティングを機に、当社の自動販売機に海拔表示を取り付けることとなりました。現在、この海拔表示の取り組みは全道へ水平展開し、道内約4,700台の当社自動販売機での展開を進めています。

緊急時の飲料提供

2012年、北海道内で発生した停電や雪害などの災害時には、北海道との防災協定に基づき、避難所へ飲料を寄贈したほか、各自治体の判断で災害対応型自動販売機内の飲料を無料で提供しています。

自動販売機による無料提供実施回数

日高町	1	停電のため
豊浦町	1	雪害のため
占冠村	1	土砂崩れのため
豊富町	1	雪害・暴風雪による停電被害のため
寿都町	2	水害避難指示のため
京極町	1	水害避難指示のため
新冠町	3	雪害・地震のため
神恵内村	1	雪害のため
猿払村	1	雪害のため
合計	12	

避難所等への飲料提供

岩見沢市	1	洪水被害のため
登別市	1	暴風雪による停電被害のため
猿払村	1	雪害のため
合計	3	





ふくしまキッズ栗山サマーキャンプの宇宙教室

福島の子どもたちに遊びと学びを提供しています。

2012年、栗山町・栗山教育委員会及び賛同企業12社と協働し、「ふくしまキッズ栗山サマーキャンプ」を栗山町の雨煙別コカ・コーラ環境ハウスで初開催しました。

これは、2011年の東日本大震災の影響で、屋外での活動に制限を受けている福島の子どもたちを対象に、夏休みの思い出作りを応援するものです。北海道の自然の中でさまざまな体験活動をするほか、北海道日本ハムファイターズの野球教室、JALの紙飛行機教室やJAXA(※)の宇宙教室を実施するなど、子どもたちに遊びと学びを提供しました。

札幌市円山動物園と協働事業を行っています。

2011年6月、当社は札幌市との間で、「環境事業に関する協定」を締結しました。

「環境教育」「子どもたちの未来」「健やかな成長」をテーマとして、札幌市円山動物園を舞台に、「アースデイ」や「メッセージムービーサミット」など、さまざまな環境教育イベントを通じて訪れた方々が環境について考えることのできる機会を創出しています。また、同園内には休憩しながら、環境の大切さを感じていただく場として

旭川市旭山動物園で循環型農業を支援しています。

2010年5月、当社が旭川市と協定している「魅力的なまちづくりに関する基本協定」に基づき、学生主導による環境教育プログラム「つながる輪「いのち」」をスタートしました。

これは、旭川市旭山動物園内にある当社寄贈の休憩施設「やすらぎの森」の隣に、地元企業や学校と協働で「循環型農園」を作り、そこで旭川実業高校の学生たちが動物たちの排泄物を堆肥に有機野菜を栽培していくものです。そして、その栽培された野菜を自分たちや動物が食べることで、「いのち」のつながりを学習する「体験型環境プログラム」となっています。

子どもたちの「もっと」に応えたい

明日の素敵な北海道をつくるため、未来の子どもたちの豊かな創造性を育みたい。私たちは、これからも人びとの心をつなげ、「みんなの笑顔」を地域に咲かせていきます。

つながる Action 3 子どもたちの笑顔に応援!

子どもたちの「まちづくり」を応援

2010年より、各都市で小学生が仮想のまちでさまざまな職業を体験しながら社会の仕組みを楽しく学ぶ「キッズタウン」を共催しています。このイベントは、当社が、各市町村および教育委員会と共催地域の企業・団体の方たちの協力を得て開催されるもので、イベント会場では毎回たくさんの子どもたちが、さまざまな職業に一生懸命に取り組んでいます。

各都市でのキッズタウン開催

市町村	開催開始年	2012年参加者数	2012年協力団体数
函館市	2010	500	25
旭川市	2011	552	25
帯広市	2012	370	23
釧路市	2012	350	18
室蘭市	2012	446	21
合計		2,216	112

北海道に眠る豊かな可能性——例えば雄大な自然と明瞭な四季、将来の産業基盤である農業、整備された道路や港湾、緑の大地に育まれた創造性豊かな若者たち。これらの「未来資源」を資本として、21世紀の北海道はさまざまな活性化していくことでしょう。北海道生まれの道産子企業だからこそ、地域社会の明日へ向けて真摯に取り組みたい。これからも、私たちは「つながる」をテーマに「子どもたちの笑顔」を応援していきたいと思っています。



札幌市円山動物園「アースデイ」での、水のろ過体験



旭川市旭山動物園内にある循環型農園



むろらんキッズタウンにおける職業体験



おびひろキッズタウンにおける職業体験



くしろキッズタウンにおける職業体験





道内企業と連携した三笠市の雪かきボランティア (左より北海道テレビ放送(株)/北洋銀行/北海道ココ・コーラボトリング(株)/北海道銀行/日糧製パン(株))

素敵な未来へ向かって、 企業や地域がつながる

北海道生まれの道産子企業として、私たちは地域社会を活性化するさまざまな取り組みを行ってきました。これからも、ふれあいをテーマに北海道のまちづくりを企業の仲間たちとともに、応援していきます。

住みよい地域社会と躍進する産業の美しい調和を目指して、北海道の新しいまちづくりが始まっています。海と大地の潜在力、注目される経済圏、多様に結ばれる人びとの交流——新たな街の息吹が、うるおいのある居住環境をつくり、生きがいと思いやりの交差する街路が広がっています。

地域に根ざした新しい企業像を求めて、北海道コココーラボトリンググループは、地域社会の豊かな可能性を見つめ、大切に育てています。

北海道のまちづくりを 応援しています。

北海道内の5都市(札幌市・旭川市・函館市・帯広市・釧路市)との間で、まちづくりに関する協定を締結し、さまざまなかたちで地域を応援しています。

2009年、札幌市および清田区との間で「さっぽろまちづくりパートナー協定」を締結し、さっぽろ雪まつりなどを応援しています。

旭川市とは2008年に「魅力的なまちづくりに関する基本協定」を締結し、旭山動物園での環境教育プログラムなどを展開しています。

2010年、帯広市と「協働のまちづくりに関する基本協定」を締結しました。帯広市では「低炭素社会の実現をめざす環境モデル都市」として、家庭や店舗から回収した食用油で製造されるバイオディーゼル燃料の利用を促進しており、2011年より当社のトレーラー

つながる Action 4

北海道を
もっと元気に!

やルトトラックでも一部導入しているほか、ソーラーパネル搭載自動販売機の「e color / ソーラー」を集中的に展開しています。

2010年、釧路市と「釧路市民とともに進めるまちづくりに関する協定」を締結しました。これにより「市民活動センターわっと」と協働し、行政情報や地域情報などを電光掲示板付き自動販売機から配信していくほか、「氷都・釧路」のシンボルでもあるスケート競技も応援しています。

雪かきボランティアを 推進しています。

北海道の「天災」ともいえる雪害に対する支援活動として、2011年より、さまざまな道内企業と連携し、大雪に悩む高齢者宅の雪かきボランティアをスタートしました。

また、2009年より当社従業員と札幌国際大学の学生たちが連携して、本社近隣の高齢者宅や道路の消火栓、ゴミステーションなどの除雪ボランティアを実施しています。

北海道に根ざした製品づくり。

2009年より札幌工場(札幌市清田区)で採水された、地元北海道の美味しい天然水「い・ろ・は・す」を販売しています(※1)。飲み終えたあとに軽い力でコンパクトにしぼる(つぶす)

ことができる日本最軽量(※2)のペットボトルを採用しており、美味しく楽しくエコに取り組めると好評です。

また、札幌工場では、製品の原材料として、北海道産のてん菜(砂糖)やミルクを100%使用し、地産地消を応援しています。

(※1) 北海道地域販売分
(※2) 2013年1月現在
国内製造品600ml以下のPETボトル対象/
日本コココーラボトリング(株)



清掃活動を定期的に実施

当社は2010年9月より、地元企業・市民が自治体と協働で進める「まち美化プログラム」の「アダプト・プログラム」を清田区と締結しています。アダプトとは「養子縁組」の意味で、道路を「養子」に見立て、各団体が「里親」となり、定期的に清掃活動を行うものです。

当社は本社前の通りの「里親」として、毎年春から初冬にかけて、月に二度清掃活動を行っています。2012年12月、私たちの継続した取り組みに対して、清田区より感謝状をいただきました。



札幌市清田区と「アダプト・プログラム」を締結



札幌市清田区の雪かきボランティア



ジョージアオリジナル旭川冬まつり缶の
売り上げを旭川市へ寄付



第21回YOSAKOIソーラン祭り缶

第64回さっぽろ雪まつり缶



バリエーション豊富な「い・ろ・は・す」

新しい環境活動のかたちを求めて

北海道コカ・コーラグループでは、自然環境の尊さと保全活動の大切さを伝え、その取り組みを実践することのでつながらる環境活動を進めています。



コカ・コーラ教育・環境財団

公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団は、北海道栗山町とともに同町の廃校だった「雨煙別小学校」を、環境教育などを体験学習する宿泊型施設「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」へと再生して、自然体験プログラムを展開するほか、毎年地域の環境教育・保全団体を表彰し、その活動を応援しています。また、当社のセミナーや社員研修にも活用されています。



環境イベントに参加



「環境広場さつぽろ2012」をはじめ、「はこだてエコフェスタ」や札幌市円山動物園での「アースデイ」、札幌市青少年科学館の「環境科学展」など、さまざまな環境イベントに参加し、当社の環境活動について紹介しています。

「ピークシフト自販機」の導入

「ピークシフト自販機」とは、却時の電力使用を、一般的に電力使用が「ピーク」となる日中から、比較的電力に余裕がある夜間にシフトした超省エネ型の自動販売機です。

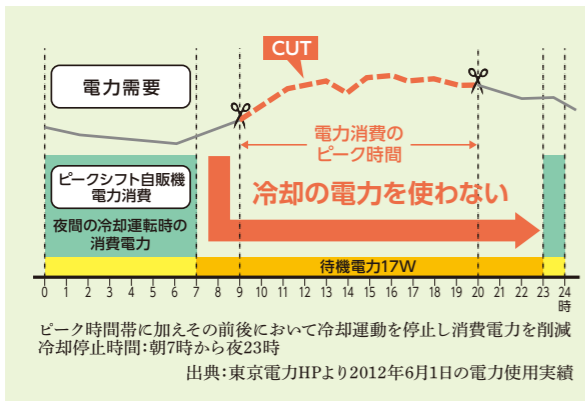
では、「全体冷却」および「断熱効果の向上」「気密性の向上」という3つの技術を向上させたことにより、補充した製品を冷却するまでにかかる時間が従来機より約25%（*）も早くなりました。さらに、冬に一部製品を加温する際も、使用するヒーターの消費電力が従来機と比べて20%（*）も少なくなり、冷却に使用する電力と合わせても68%（*）の消費電力の削減とすることがわかりました。

なお、この自販機には、地球温暖化の進行により生息数の減少が心配されている「ポニーレーベア」（***）がデザインされています。

（*）2012年度製造同型機平均値比（日本コカ・コーラ社調べ）
（**）収容本数の1/3を加温する場合（日本コカ・コーラ社調べ）
（***）ポニーレーベアは1922年にフランスの広告に登場して以来、世界中でコカ・コーラのコミュニケーションに登場してきた地球に優しいキャラクターです。



時間帯別電力需要の推移とピークシフト自販機の電力消費イメージ図



自動販売機の節電省エネ大賞受賞

2012年夏、コカ・コーラシステムでは、安定した電力供給に貢献するべく、2012年7月2日から9月30日までの間、自動販売機の輪番停止や屋内での24時間消灯徹底などを通じ、目標の2010年度比15%削減を上回る「15.8%の節電」を達成することができました。

この取り組みは、「平成24年度省エネ大賞省エネ事例部門省エネルギーセンター会長賞」を受賞しました。

また、北海道は冬場の電力需要が高まることから、政府の節電要請がありました。今後も、継続して節電に取り組んでまいります。



技術の向こうに見える、エコの顔

真の快適さを考えてみると、太陽と水と緑のある暮らし、すなわち環境に配慮した生活がイメージされます。私たちは、いま緑の大地や水のせせらぎを守る、さまざまなエコ技術を導入しています



新マルチPETライン稼働

2012年、札幌工場では、ペットボトル飲料無菌充填ラインである「新マルチPETライン」が稼働しています。このラインはさらなる品質向上と省エネを実現した最新鋭のラインで、280mlの小型ペットボトルから2ℓの大型ペットボトルにいたるまで、北海道の皆さまの様々なニーズに合わせた多彩なラインナップの生産が可能で、また、洗浄水の削減につながるEB（エレクトロン・ビーム）殺菌をはじめとする最先端の技術が採用されています。



バイオディーゼルの導入

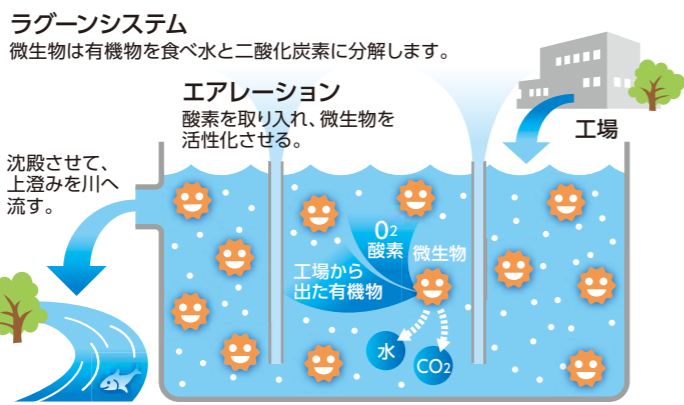
2010年「環境モデル都市」である帯広市と「協働のまちづくり」に関する基本協定」を締結しています。

2011年より当社のトレーラーやルートカーにバイオディーゼル燃料の導入を順次スタートし、新しい時代のエネルギー環境を応援しています。



自然にやさしい排水処理システム

札幌工場では「ラグーン処理方式」と呼ばれる専用施設で排水を処理し、国の排水基準を遵守しています。これは微生物の自己浄化サイクルを利用した、余剰汚泥の発生量が少ない排水処理システムです。



排水基準 許容限度(日間平均)	2010年 最大値(日間平均)		2011年 最大値(日間平均)		2012年 最大値(日間平均)	
	COD	BOD	COD	BOD	COD	BOD
160 (120)	13.5 (8.6)	3.6 (1.4)	11.4 (8.8)	2.5 (1.4)	14.0 (9.0)	5.3 (2.0)

※COD: 化学的酸素要求量 BOD: 生物化学的酸素要求量

水使用量の削減

札幌工場では容器の洗浄水、製品の殺菌工程からの回収水や冷却水などを循環利用し、約2,400m³/日(20時間稼働時)の節水を実現しています。

プラントボトル

2010年3月より、「i・ろ・は・す (I・L・O・H・A・S)」に植物由来の素材を一部(5~30%)使用した「プラントボトル」を導入しています。



容器の軽量化

コカ・コーラシステムでは、省資源化を目指して容器の軽量化を進めています。



(2011年実績/2004年対応)

使用済み空容器のリサイクルを推進

大切な資源である空容器の回収とリサイクルを推進しています。回収した空容器は、自社または専門の業者によりPET・アルミ・スチールなど材質別に分別され、再資源として有効活用されます。

国内の容器別リサイクル率 (2011年度)

アルミ缶 アルミ缶リサイクル協会	92.5%
スチール缶 スチール缶リサイクル協会	90.4%
PET ボトル (回収率) PET ボトルリサイクル推進協議会	85.8%
ガラスびん (カレット使用率) ガラスびんリサイクル促進協議会	73.3%

札幌工場は「ゼロエミッション」

札幌工場では、2000年より廃棄物の埋め立てと単純焼却処理を一掃し、すべてをリサイクルする「ゼロエミッション」活動に取り組み、2001年から目標を100%達成しています。

一般廃棄物	ゼロエミッションの内容							工場廃棄物排出量 (単位: t)
	リサイクル前	肥料	再生紙、ダンボール	再生プラスチック、固形燃料	再生金属	セメント原料、肥料	ガラスびん	
3,758	1	8	14	98	125	174	3,337	2010
3,948	2	7	17	105	136	186	3,494	2011
3,882	13	3	19	78	205	180	3,383	2012
合計								

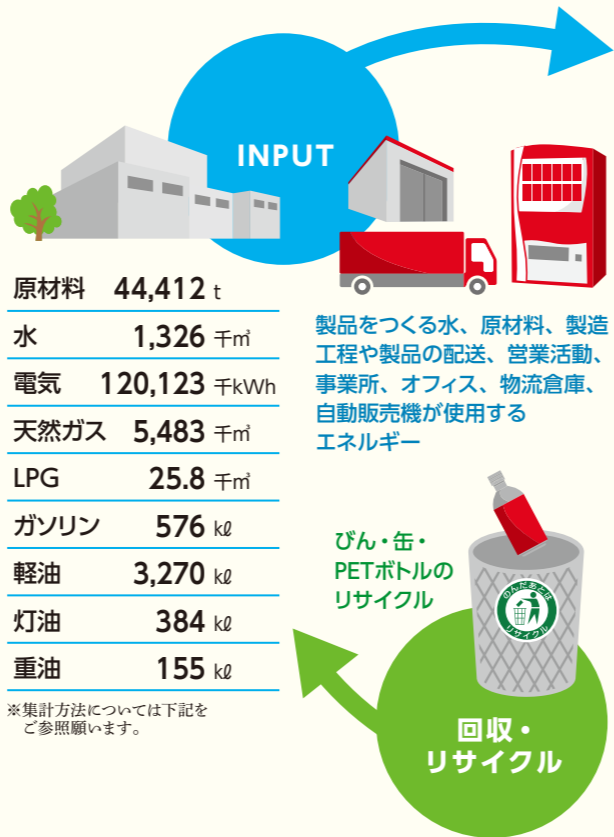
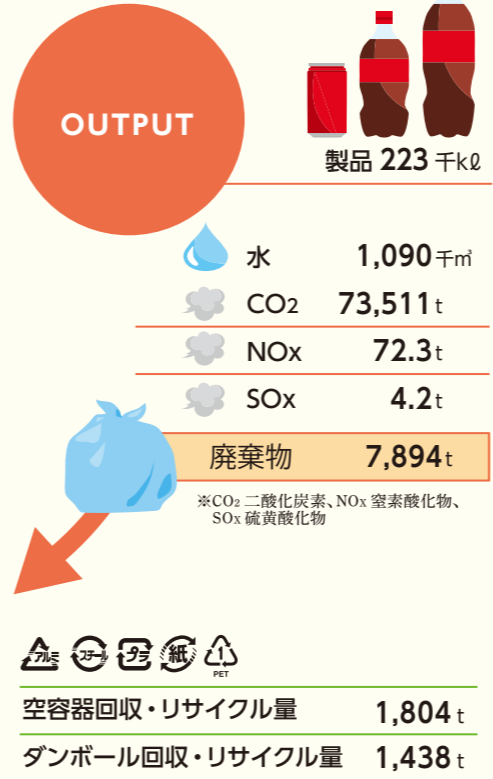
※四捨五入のため、合計が合わない場合があります。

環境への影響を

「見える化」すると

事業プロセスごとの投入量（INPUT）と排出量（OUTPUT）を集計することで、各部門がどのくらい環境に負荷を与えているかを把握し、積極的な環境保全に役立てています。

マテリアルバランス



環境会計

環境保全コスト

夏季の節電対策として、自動販売機に輪番停止のための省エネタイマーを導入し、環境に配慮しました。

環境保全効果

自動販売機は、夏季節電対策として実施しているピークカットに加え、6つのグループに分けた自動販売機の輪番停止により、電力使用量を削減しました。また、2012年より新規購入の自動販売機は、対応可能なもの全てにLED照明を採用しています。

工場は、土日への勤務切り替えや稼働時間を変更することにより、電力使用のピーク時間帯に消費電力を削減しました。

2012年に増設した新工場は、ペットボトルの成形から充填までを一体化し、省エネルギーを考慮しています。また、薬剤の使用しない殺菌方法を採用し、ボトル洗浄水を約50%節水しました。

今後も効果的な環境改善活動を継続し、環境負荷削減に努めます。

自動販売機のリサイクル

2012年に耐用年数経過等により廃棄した自動販売機は約2千8百台です。

環境保全コスト

項目	主な取り組みの内容	2011年		2012年	
		投資額	費用額	投資額	費用額
1. 事業エリア内コスト	計	57,415	121,488	2,960	124,690
(1) 公害防止コスト	工場排水処理 他	28,990	59,050	0	64,685
(2) 地球環境保全コスト	工場節水設備・省エネルギー設備 他	27,445	21,599	2,960	20,880
	自動販売機のフロン回収・破壊	0	9,134	0	8,270
	クリーンエネルギー車導入（天然ガス車・ハイブリッド車）	0	5,488	0	5,488
(3) 資源循環コスト	各事業所の廃棄物の処理・リサイクル	980	23,933	0	23,301
	自動販売機の処理・リサイクル	0	2,283	0	2,067
	計	0	111,237	0	106,399
2. 上・下流コスト	空容器の回収・リサイクル	0	25,652	0	24,573
	空容器回収ボックス・空容器回収用ポリ袋	0	47,439	0	44,378
	再商品化委託費 他	0	38,145	0	37,448
	計	0	27,853	0	38,249
3. 管理活動コスト	環境負荷の測定	0	19,249	0	29,645
	EMSシステム構築・運用、環境コミュニケーション	0	8,605	0	8,605
	計	0	17,432	0	17,382
4. 社会活動コスト	業界団体活動、環境支援活動 他	0	16,912	0	16,862
	本社構内緑化保守	0	520	0	520
	合計	57,415	278,010	2,960	286,720

効果1 環境保全効果

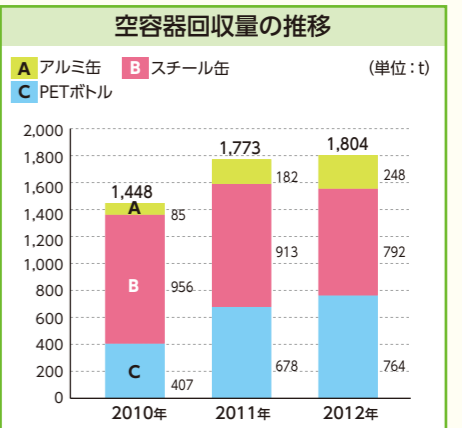
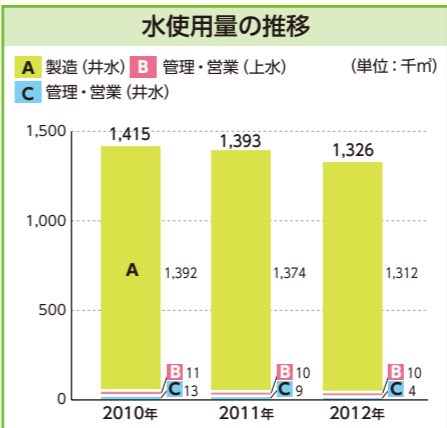
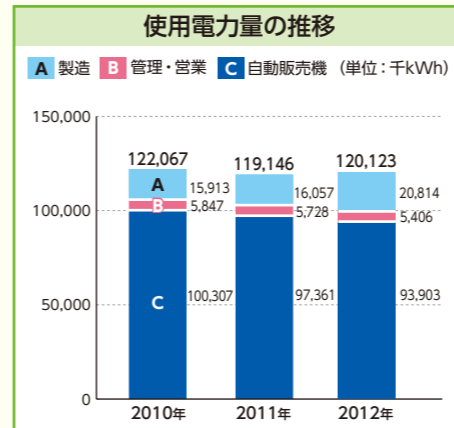
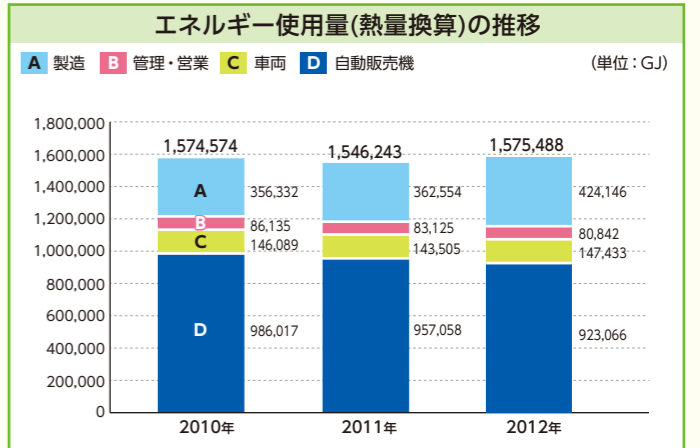
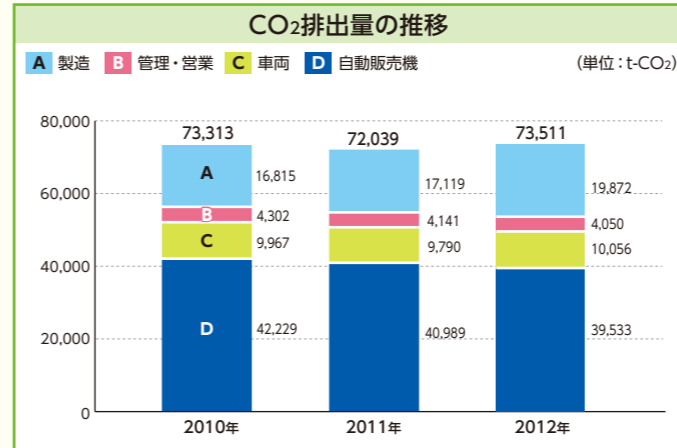
項目	単位	2010年	2011年	2012年		
		実績値	実績値	実績値	対前年増減率	
総エネルギー（熱量換算）	GJ	1,574,574	1,546,243	1,575,488	1.9%	
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	73,313	72,039	73,511	2.0%	
NO _x 排出量	燃焼設備	t	7.1	7.1	7.6	6.7%
	車両	t	64.7	63.3	64.7	2.2%
水使用量	m ³	1,415,407	1,393,333	1,326,629	-4.8%	

効果2 環境保全対策に伴う経済効果

内容	2010年	2011年	2012年
リサイクルにより獲られた有価物の売却額（自動販売機、缶、PET、プラスチック、古紙等）	38,468	43,238	37,218

＜集計方法について＞
 ・CO₂は電力・燃料より、NO_x・SO_xは燃料より算出しています。（SO_xは排出量が微量であるため、環境保全効果の表中には記載していません。）
 ・燃料由来のCO₂排出量は、「地球温暖化対策推進法施行令」に基づく換算係数より算出しています。
 ・電力由来のCO₂排出量は、電気事業連合会のCO₂排出原単位（2004年度）より算出しています。

・NO_x排出量は、環境省「環境活動評価プログラム」の排出係数より算出しています。
 ・SO_x排出量は、燃料の組成より理論値を用いて算出しています。
 ・車両の項目には、敷地内で使用するフォークリフト及び当社製品等を運搬している外部委託車両の燃料使用量を含めています。



※2012年の製造部門は、新マルチPETライン稼働により、多様なパッケージが生産できるようになりました。また、PET容器の成形も自社で行えるようになったことにより、容器の輸送エネルギー削減に貢献しております。※四捨五入のため、合計が合わない場合があります。

ひとりひとりの元気のために

地域社会の夢を実現していくためにも、
人びとの心をひとつに結び、地域のきずなを深めるなど、
これからも私たちは地域の親しまれるパートナーとして
歩み続けます。

YOSAKOI ソーラン祭りを応援

当社は、初夏の札幌を彩る「YOSAKOIソーラン祭り」をオフィシャルスポンサーとして応援しています。また、地元の札幌国際大学と協働し、「コカ・コーラ札幌国際大学チーム」として第3回から連続参加しており、2012年には4回連続してファイナル進出を果たしました。



スポーツチームを応援

2007年より、当社は「北海道日本ハムファイターズ」とスポンサー契約を結び、毎年応援キャンペーンとイベントを開催しています。また、2007年より「Qoo」が球団マスコット「B・B」と一緒に道内の幼稚園や保育園を訪問し、「ちゃんと食べよう体操」を通じて、子どもたちの食育を応援しています。

さらに、「コンサドーレ札幌」および「レバンガ北海道」をスポンサーとして応援し、北海道におけるプロスポーツの発展に貢献しています。



清田区少年少女 大なわとび大会

2012年11月、清田区体育館に区内の小学生約700名が集まり、「第15回清田区少年少女大なわとび大会」が開催されました。当社は大会スポンサーとして、第一回より飲料を提供し応援しています。

45年目の クリスマスプレゼント

1968年より当社は毎年、道内各市町村の福祉施設にクリスマスプレゼントとして製品をお届けしています。2012年は約14万本を寄贈し、1968年からの累計で約251万5千本を達成しました。



ピンクリボン活動を応援

当社は2010年より「ピンクリボン運動」を応援しています。当社のピンクリボンでは、乳がんの早期発見の重要性を訴えるほか、ピンクリボンを女性の命や健康の大切さ、またすべての病気がんの早期発見

見のシンボルと位置づけ、活動を展開しています。ピンクリボン月間の10月には、「北海道きたえる」でメッセージコミュニケーションを作成するほか、小樽でピンクリボンイベントに参加しました。



*デザインは一例です。



KORE

Coca-Cola (KO*) OPERATING REQUIREMENTS

コカ・コーラ オペレーティング リクワイアメント
*「KO」は、ニューヨーク証券取引所に上場しているコカ・コーラカンパニーの略称です。

原材料の調達、製品の製造からお客さまに届くまで、コカ・コーラシステム独自のマネジメントシステムと国際規格の認証取得をおして、経営の向上に努めています。

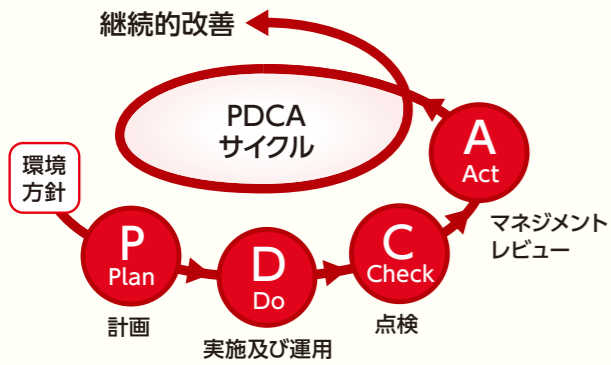
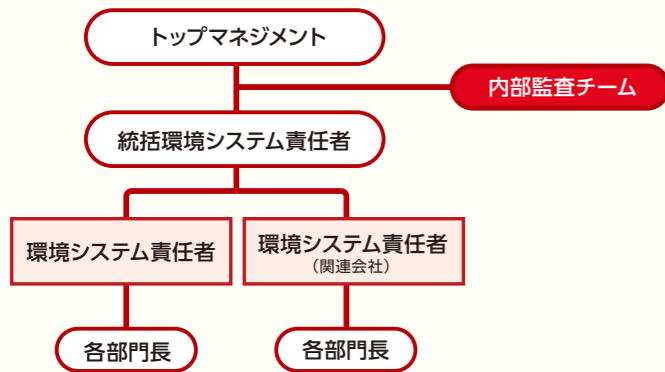
マネジメントシステム「KORE」

コカ・コーラシステムは世界共通の「KORE (Coca-Cola Operating Requirements)」と呼ばれる独自のマネジメントシステムでオペレーション管理を行っています。「KORE」は原材料の調達から製造、物流・輸送、販売をとお客さまに製品が届くまでの過程における「品質」「食品安全」「環境」および「労働安全衛生」に関する基準を網羅したシステムで、国際規格であるISOや各種法令の要求事項を満たしつつ、さらに厳しい基準を自らに課す内容となっています*。

省エネルギー、省資源に努め環境負荷の低減を目指して

2010年2月、本社敷地内に所在する、当社グループの各事業所で、環境マネジメントシステムの国際標準規格である「ISO14001」を認証取得しました。組織として決定した環境方針のもとで、事業活動・製品及びサービスが環境に与える影響を把握・評価・是正し、継続的に改善していくことによって、省資源・省エネルギーをはじめとする環境負荷の低減に努めて

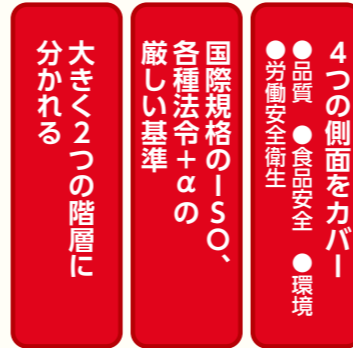
ISO14001における環境保全推進体制



ISO14001認証

いきます。また、廃棄物の削減、再資源化の促進、汚染の予防、そして環境保全に対する全従業員の意識向上などに積極的に取り組んでいきます。

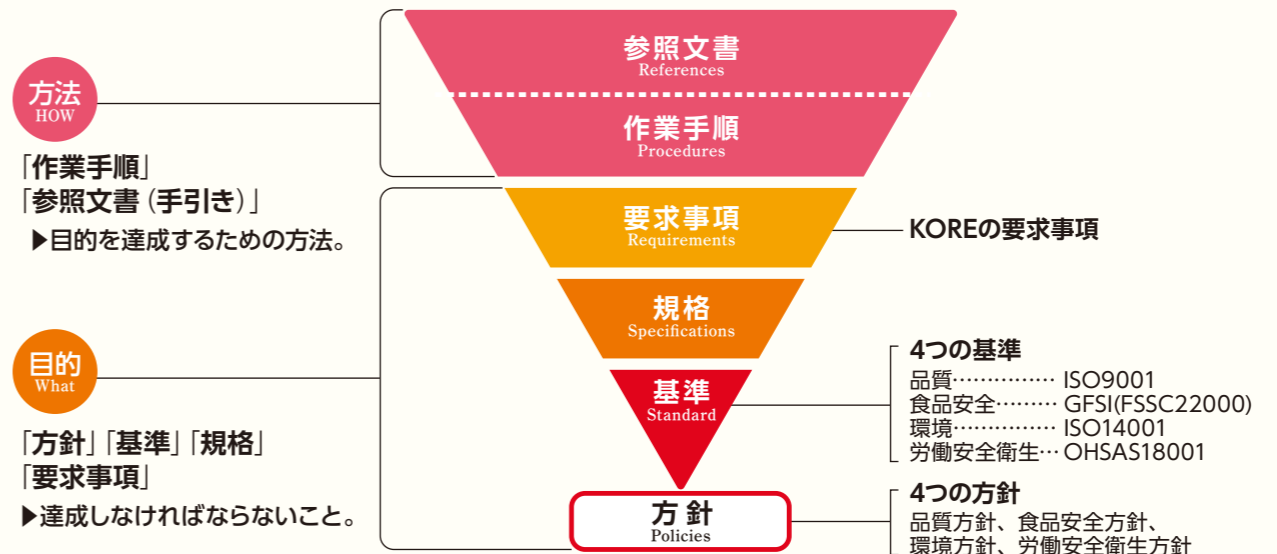
構造と特徴



際のパフォーマンス状況の測定が審査登録機関によって少なくとも年1回行われています。社外第三者からの客観的評価が加わることで、コカ・コーラシステムにおけるマネジメントシステムの公明・公正な運用が保証されています。

*「品質」に関してはISO9001に、「食品安全」はGFSIに、「環境」はISO14001に、「労働安全衛生」はOHSAS18001に準拠。

KOREの構造



環境理念

環境理念

北海道コカ・コーラボトリンググループは、責任ある企業市民として、地球環境の保全に配慮した事業活動を行い、地域社会の豊かな環境の維持と社会の継続的な発展に貢献します。

環境行動指針

1. 省エネルギー、省資源に努め、環境負荷を低減します。
2. 事業活動に伴う廃棄物の削減と再資源化を促進するとともに、汚染の予防に努めます。
3. 環境保全に対する全従業員の意識向上を図り、グループをあげて環境保全活動に取り組みます。
4. 地域社会における環境保全活動への協力・支援を推進します。
5. 環境に配慮した物品の購入を促進します。
6. 環境関連法規制、KORE(コカ・コーラシステム)が定める基準及びその他の要求事項を遵守します。

2011年4月26日制定

安全と安心をお届けするために

「いつでもどこでも変わらない「おいしさ」、そして「安全」を求めて、北海道コカ・コーラボトリンググループでは、すべてのプロセスにわたって品質管理に取り組んでいます。

安全で安心な製品を
お客さまへ
全社でISO9001の
認証を取得

証を取得し、2009年10月には「ISO9001:2008」への移行認証を受けました。今後も、グループ全員で経営品質を高めていく活動に取り組んでいきます。

新鮮な製品を
お届けするために

コカ・コーラシステムは、いつでも、どこでも、だれにでも、安心してお客さまにお飲みいただける高品質な製品を提供するために努めています。2004年からは「フレッシュネス活動」を開始し、在庫の適正管理によって、製造からお客さまの手元に届くまでの期間に目標を設定するなどの取り組みを行いました。

お客さまのお手元に届くまでの鮮度管理目標や製品取扱管理基準を設け、賞味期限切れや容器不良の防止に取り組んでいます。特に、自動販売機における賞味期限切れの防止については、自動販売機へ商品を装填する営業担当者が、適正本数の装填と補充時のチェック活動を行っています。

ISO10002への
適合を宣言

私たちは、お客さまから寄せられるご指摘・ご提案・お問い合わせなどの声を大切に行っています。お客さまへの対応について、ご指摘(苦情)対応に関する国際規格「ISO10002」に適合していることを確認し、2007年8月に適合を宣言しました。



ISO9001:2008認証

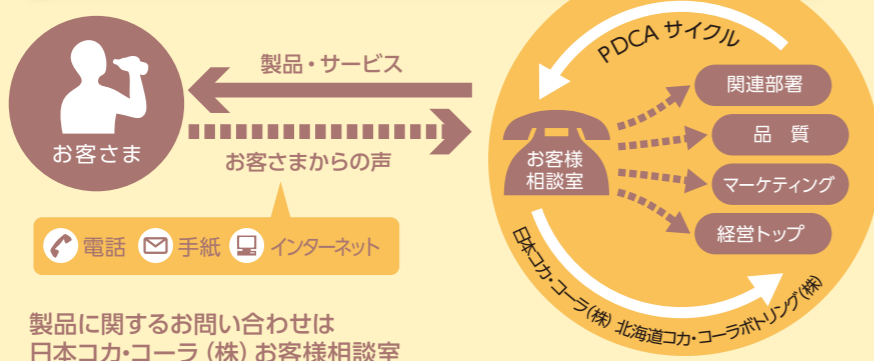
【基本理念】

私たちは、生活者やお客さまに「さわやかさと潤い」をお届けしたいと考えています。お客さまとのコミュニケーションを大切に、お客さまへ安全で安心できる製品、サービスを提供するとともに、お客さまの声を積極的に企業活動に活かし、地域のみなさまから「信頼され、認められる企業」を目指してまいります。

【基本方針】

- (1) お客さまの声を真摯に受け止め、公正、公平で透明性の高い対応を心掛けるとともに、迅速、適切に行動します。
- (2) お客さまとの大切なコミュニケーションの機会ととらえ、積極的な情報提供を行います。
- (3) 社会に対する責任を自覚し、関連する法的、倫理的な要求事項や自主的基準を遵守します。
- (4) お客さま満足の向上を目指して、常に最善を尽くします。

お客さまへの対応について、ご指摘(苦情)対応に関する国際規格「ISO10002」に適合していることを確認し、2007年8月に適合を宣言しました。



製品に関するお問い合わせは
日本コカ・コーラ(株) お客様相談室

サワヤカコーグ
0120-308509 ◀土日祝祭日を除く
9:30~17:00

URL <http://www.cocacola.co.jp>

札幌工場の取り組み

コカ・コーラシステムが世界共通で導入している独自のマネジメントシステム「KORE」の4つの側面である、品質・食品安全・環境・労働安全衛生の観点から、札幌工場では製品の安全性を追求し、品質の向上を図っています。2010年には、食品安全マネジメントシステムの認証規格である「FSSC22000」を取得しました。また、安全・安心の品質を守るために、複数の検査士による味覚検査をはじめ、製造設備の徹底したメンテナンスの実施、さらに使用する水質の安全性の保証に努めています。



※「KORE」はISO9001(品質マネジメントシステム)、FSSC22000(食品安全マネジメントシステム)、ISO14001(環境マネジメントシステム)、OHSAS18001(労働安全衛生マネジメントシステム)の基準が含まれています。

親しまれ信頼され続ける 企業へ向けて

企業としての社会的責任を果たすとともに、
地域のみならずから信頼され、
いつまでもさわやかな職場環境づくりを進めていきます。

企業としての 社会的責任を果たす

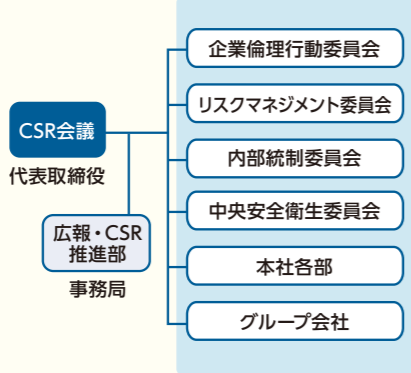
コーポレート・ガバナンス
企業倫理とコンプライアンスの重要性を認識し、企業の社会的責任(CSR)を果たすことを経営上の最も重要な課題の一つと位置づけています。

お客さま、株主・投資家のみなさま、お取引先さま、社員など、さまざまなステークホルダー(利害関係者)と良好な関係を築くとともに、的確な経営の意思決定、それに基づく業務遂行、適正な監督・監査

また、コカ・コーラシステムの危機管理システム(IMCR)との連携や研修等を通じ、リスク管理対応力を強化しています。

CSR会議の定例開催

CSR経営を推進するうえでの現状分析と課題の抽出に取り組み、地域に貢献する企業市民として適切な活動ができるよう、各委員会や本社各部門・グループ各社で構成する「CSR会議」を定例開催し、グループ全体として組織的なCSR活動を展開しています。



災害発生時の取り組み

万が一の災害発生時には、従業員の安否を素早く確認するために、携帯電話を活用した一斉配信

を可能とする経営体制を構築し、総合的コーポレート・ガバナンスの充実が図れるよう努めています。

内部統制システム

会社法の施行にともない「業務の適正を確保するための体制の基本方針」について取締役会決議し、併せて当社の内部統制システムの強化と、社会的信頼の獲得に資することを目的とした「北海道コカ・コーラグループコンプライアンス管理基本規程」を制定しています。

また、ステークホルダーに対する適切な情報開示とグループ経営基盤強化の一環として、金融商品による安否確認の取り組みを進めるとともに、災害時に不足が予想される物品を備蓄し、従業員の安全を確保しています。

企業倫理活動への 取り組み

良き企業市民であり続けるために、1997年12月に設置した「企業倫理行動委員会」のもと、企業倫理活動を推進しています。また、従業員が上長などに相談しにくい場合の相談窓口として、匿名性の確保と相談内容の機密保持に万全を期した「オープンドア・ルーム」を運用しています。

個人情報の保護について

お客さま・お取引先さまをはじめとする個人情報の重要性を認識し、2005年4月に完全施行された個人情報保護法を遵守するため、個人情報保護ポリシーおよび個人情報保護規程を制定するとともに、eラーニングなどの社員教育やITセキュリティの強化など、個人情報の保護にグループ全体で取り組んでいます。

取引法に対応するための「内部統制の基本方針書」を制定し、財務報告に係わる内部統制の適切な整備・運用および、その評価・報告を毎期継続して行うことに努めています。

危機管理体制の強化

当社は、リスクマネジメント委員会を組織し、予防的なリスクマネジメントを実行するとともに、天災・製品事故等が発生した際の対応手順である「危機管理マニュアル」を作成し、リスク管理体制を構築しております。

交通安全への取り組み

車両事故の未然防止、交通ルールマナーの遵守及び安全意識の向上を図ることを目的に、アルコール検知器やセーフティレコーダーを導入しているほか、交通事故を起こした社員を対象に動画による危険予知訓練を行うなど車両事故の再発防止にも努めています。

仕事と家庭の 両立支援への取り組み

仕事と家庭生活の両立を図ることを目的に「育児・介護休業法」の定めに基づいた、育児休業制度、介護休業制度、子どもの看護休暇、介護休暇、所定労働時間を最大3時間短縮できる育児短時間勤務制度のほか、所定外労働の免除、育児・介護のための時差勤務制度を設け、子育てや介護をしながら安心して働くことができるよう支援体制を整備しています。

障がい者の雇用について

障がい者の雇用率はグループ全体で2.3%と法定雇用率(2.0%)に

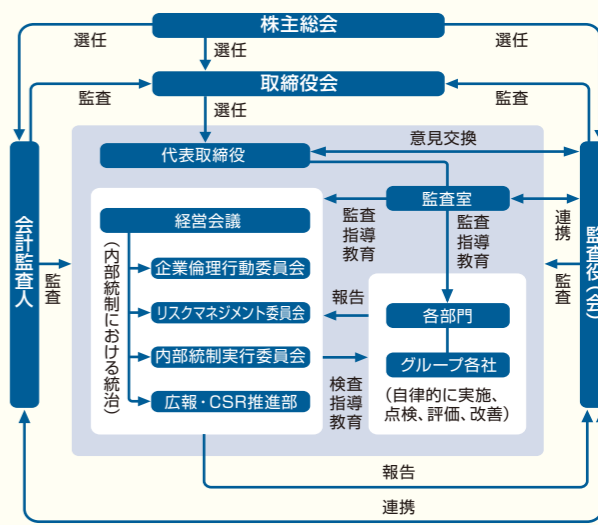
グローバル人材育成 制度について

社員が働きながら幅広い知識や高度な専門能力を積極的に習得していくことを支援する「グローバル人材育成制度」を2011年に開設しました。ビジネススクールでMBAの習得を目指す「MBAコース」や、語学スキルで英語・中国語の習得を目指す「語学コース」のほか、2012年からは「コカ・コーラシステムをグローバルな視点から学び、体験する「海外研修コース」を新たに開設しています。

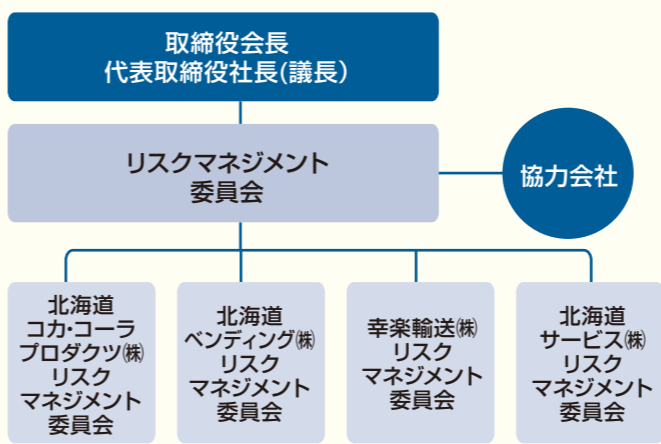


外国人観光客へサンプリングを行う語学コース対象者

コーポレート・ガバナンスおよび内部統制の模式図



北海道コカ・コーラボトリング(株)危機管理体制



北の大地とともに成長する企業として

北海道の美しい自然を愛する企業市民として、
この豊かな大地へ想いをつなぎ、
さまざまな事業活動を展開しながら、
地域とともに一歩ずつ着実に歩んでまいります。

経営理念 私たちは、21世紀の創発的な社会に貢献します。

経営指針 私たちは、

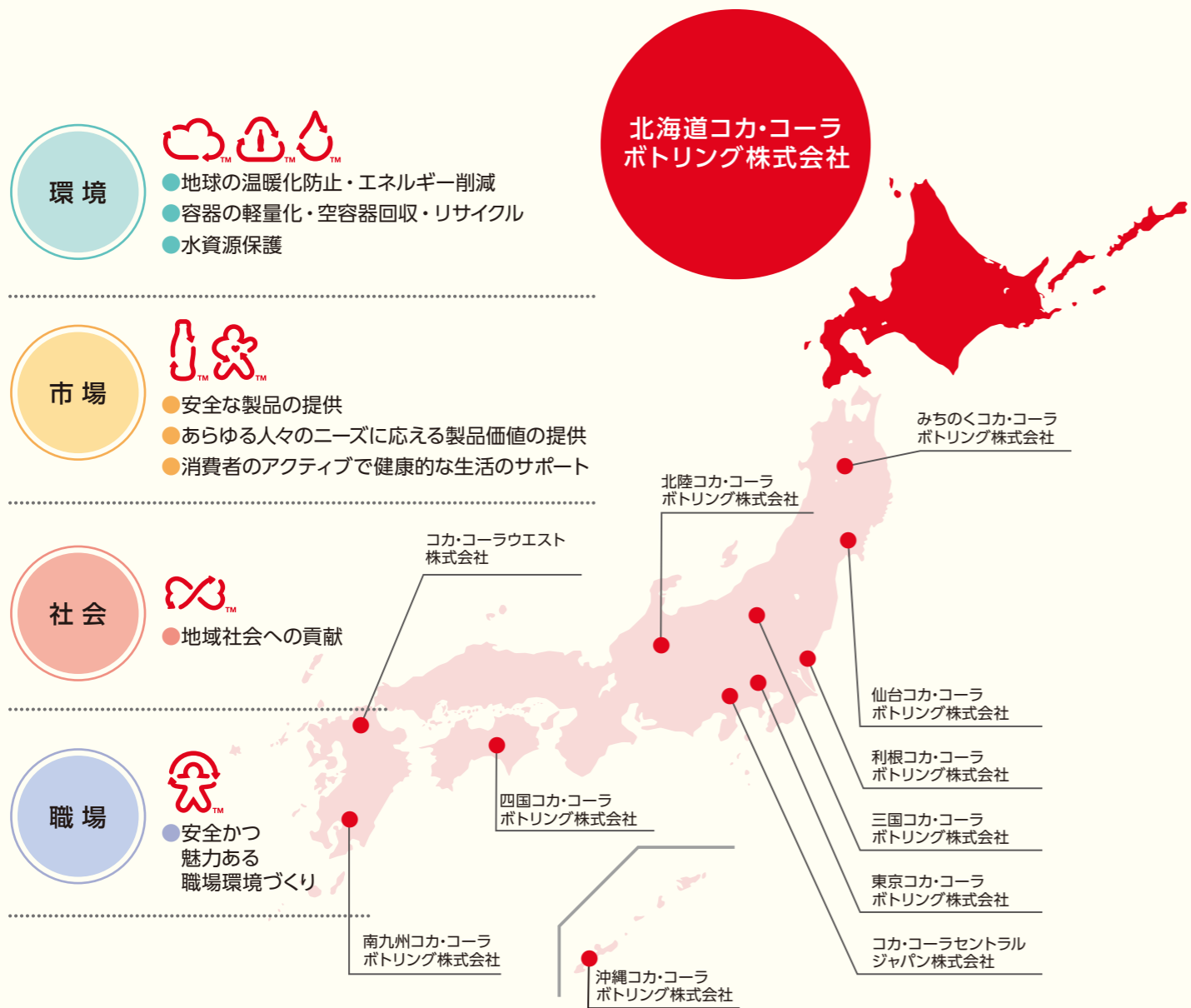
1. 生活者やパートナーに「さわやかさと潤い」を提供します。
2. 生活者やパートナーとの共存共栄を図るとともに地域社会に貢献します。
3. 変革にチャレンジし、活力ある創発的な企業グループをつくりまします。

社員行動規準

- ・私たちは、常に「さわやかさと潤い」を届けます。
- ・私たちは、生活者やパートナーとのコミュニケーションを大切にします。
- ・私たちは、一人ひとりがさわやかな存在になります。
- ・私たちは、時代の変化に適応し変革を起し続けます。
- ・私たちは、「環境に、地域に優しい」企業活動を実践します。
- ・私たちは、良き「企業市民」として社会に貢献します。

中期経営計画

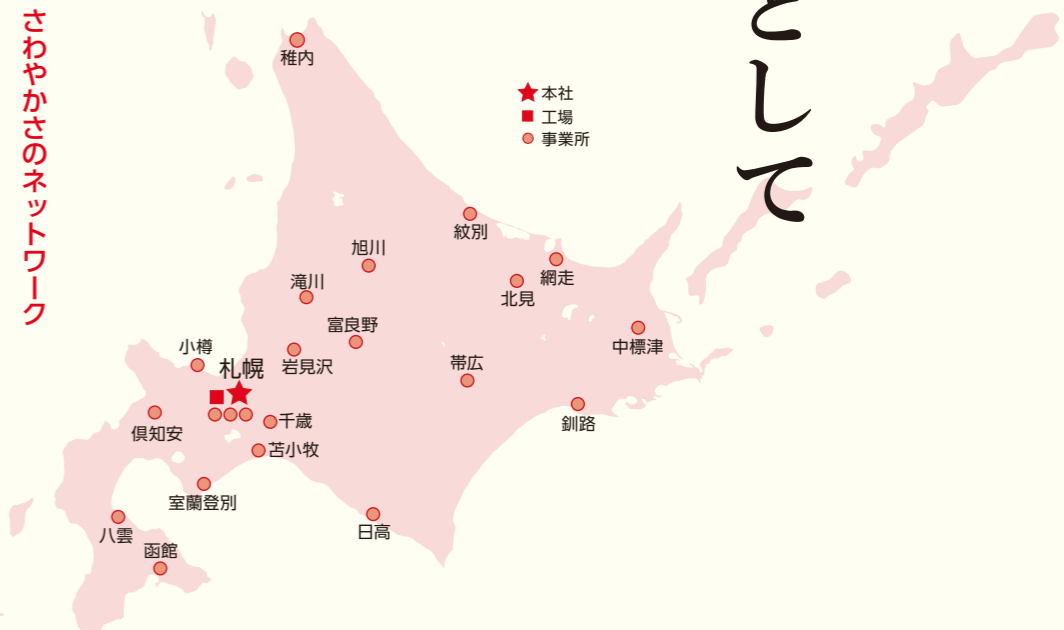
コカ・コーラのブランド力と
道産子企業の地域密着力で北海道に貢献する。



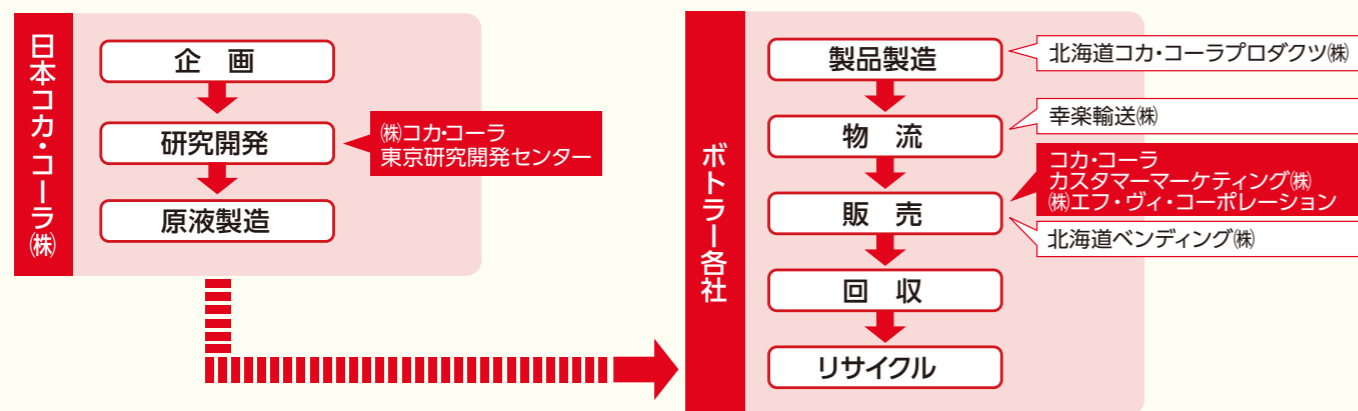
さわやかさのネットワーク

北海道コカ・コーラボトリンググループのさわやかさのネットワークは、札幌の本社を中心に、広く全道各地へ拠点網を有しています。

この北海道で、いつでも、どこでも、だれにでも、変わらぬ味をお届けできるのも、地域に密着したネットワークがあるからこそ可能なのです。



コカ・コーラシステム概要



「さわやかさ」を身近に感じてほしい

みなさまとのより身近なコミュニケーションを願う、
私たちは工場見学ツアーを実施しています。
みなさまのお越しを心からお待ちしています。



札幌工場へようこそ！

当社では、創業以来「工場見学」を実施しています。工場見学では、徹底した衛生管理のもとで製造されるコカ・コーラ社製品の製造工程のほか、昔懐かしい自動販売機やポスター、環境・地域との取り組みなどを、案内員がわかりやすく紹介しています。

2012年も、たくさんのお客さまにお越しいただくことができました。近年では、社会見学・修学旅行に加え、大人のお客さまにも多くご来場いただいていることから、年代に応じた説明内容でみなさまにご満足いただけるプログラムとなっております。

工場見学のご案内

「さわやかさとうるおい」が生まれる現場に足を運んでみませんか？

お客さまの声にお応えし、7～9月は土曜日の見学を実施しています。



所要時間
約60分

5分

概要説明

35分

製造工程
立体自動
倉庫見学

20分

ビデオ上映・
試飲

※工場設備点検などにより、稼働していない場合は、映像でのご案内になります。

見学できる
日時

毎週月曜～金曜日（祝祭日も可）
午前10:00～12:00、午後1:30～4:30

※祝祭日は一部休みの日もあります。
※7～9月は土曜日も見学いただけます。

所要時間

約60分

※ご要望に応じて調整することができます。

見学場所

札幌工場

札幌市清田区清田一条一丁目2番1号

工場見学のお申し込み方法

工場見学はあらかじめお申し込みが必要です。
直接電話または手紙でご予約ください。

お申し込み・お問い合わせ（広報・CSR推進部）

☎011-888-2100

会社の概要

商号	北海道コカ・コーラボトリング株式会社 (コカ・コーラ指定会社) HOKKAIDO COCA-COLA BOTTLING CO.,LTD.
設立	1963年1月24日
代表者	代表取締役社長 矢吹健次 代表取締役専務 佐々木康行
本社所在地	〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号 TEL (011) 888-2001 (総務人事部)
資本金	29億3,515万4千円
従業員数	443名(グループ1,006名) (2013年3月末日現在)
事業の概要	北海道を販売地域とした清涼飲料の製造および販売
事業所	本社、札幌工場、営業拠点(22)
決算期日	毎年12月31日(年1回)
上場証券取引所	東京証券取引所市場第2部、札幌証券取引所

グループ会社の概要

- 北海道コカ・コーラプロダクツ株式会社
清涼飲料水及び飲料水用容器の製造
各種自動販売機の修理、設置及び撤去
- 北海道ベンディング株式会社
自動販売機による飲料、食品等の販売
- 幸楽輸送株式会社
コカ・コーラ社製品の工場・営業所間の輸送、
一般貨物輸送、倉庫業
- 北海道サービス株式会社
一般事務処理業務、CD・ビデオの販売・賃貸、
書籍等の販売、事務機器等のリース、清掃業、損害保険代理業

企業集団の財産および損益の状況の推移

(単位：百万円)

区分	第49期 (2010年)	第50期 (2011年)	第51期 (2012年)
売上高	63,043	57,072	56,276
経常利益	1,357	1,503	629
当期純利益	1,375	2,651	722



ペットボトル製品の製造ライン



春：春休み特別イベント「ペットボトルで空気砲を作ろう！」 夏：夏休み特別イベント「水辺の生きものを知ろう！」

工場見学イベント
札幌工場では、工場見学春休みイベント「ペットボトルで空気砲を作ろう！」や夏休み特別イベント「水辺の生きものを知ろう！」など、季節ごとにさまざまなイベントを開催しております。

編集方針

「～北の大地とともに～北海道コカ・コーラボトリング株式会社CSRレポート2013」は、当社グループのCSR (Corporate Social Responsibility:企業の社会的責任) に対する取り組みをわかりやすく開示し、ステークホルダー (利害関係者) のみなさまからご意見をいただき、北海道の明るい未来を形づくる持続可能な活動につなげることを目的に発行しています。

[対象期間]

2012年1月1日～2012年12月31日。実績データは2012年、活動内容の一部は2013年も含みます。

[対象組織]

原則的にグループ連結会社を対象としています (「グループ会社の概要」参照)。

[ご意見・ご感想]

今後の企業活動やレポートづくりの参考とさせていただくため、本レポートをお読みいただいたみなさまのご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

作成部署・連絡先

北海道コカ・コーラボトリング株式会社
〒004-8588
札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
TEL(011)888-2135 [広報・CSR推進部]

ホームページアドレス
<http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>

【CSRレポート バックナンバー】

バックナンバーは下記の当社ホームページでご覧いただけます。
<http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/company/csreport.html>



CSRレポート2010



CSRレポート2011



CSRレポート2012



北海道コカ・コーラボトリング株式会社

(コカ・コーラ指定会社)

〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号

TEL(011)888-2135 (広報・CSR推進部)

COCA-COLA、コカ・コーラ、GEORGIA、ジョージア、I LOHAS、
い・ろ・は・す、COCA-COLA Zero、コカ・コーラゼロ、Fanta、ファンタ、
MinuteMaid、ミニッツメイドは The Coca-Cola Companyの商標です。

2013年4月発行/次回は2014年3月の発行予定です。



「～北の大地とともに～北海道コカ・コーラボトリング株式会社 CSRレポート2013」をお読みいただき誠にありがとうございます。

今後の企業活動やレポートづくりの参考とさせていただきますため、みなさまのご意見・ご感想を、FAXまたは郵送にてお寄せいただければ幸いです。

に印をおつけください。

Q1 このレポートについての評価をお聞かせください。

- | | | | |
|---------------|---------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
| ●内容の充実度 | <input type="checkbox"/> 充実している | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 不足している |
| ●情報量 | <input type="checkbox"/> 多すぎる | <input type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 少なすぎる |
| ●読みやすさ、わかりやすさ | <input type="checkbox"/> 良い | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 悪い |
| ●デザイン | <input type="checkbox"/> 良い | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 悪い |

Q2 特に興味を持たれた内容がありましたか？(いくつでも)

- | | |
|---------------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> つながる北海道 | 北海道コカ・コーラボトリンググループ つながる50年 |
| <input type="checkbox"/> つながるAction 1 | 環境・水の循環 途切れず、つづける。次世代につなぐ。北海道の豊かな水環境 |
| <input type="checkbox"/> つながるAction 2 | 安全・安心ネットワーク かけがえのないふるさとを守りたい |
| <input type="checkbox"/> つながるAction 3 | 子どもたちの笑顔を応援！ 子どもたちの「もっと」に応えたい |
| <input type="checkbox"/> つながるAction 4 | 北海道をもっと元気に！ 素敵な未来へ向かって、企業や地域がつながる |
| <input type="checkbox"/> 環境コミュニケーション | 新しい環境活動のかたちを求めて |
| <input type="checkbox"/> 環境負荷低減 | 技術の向こうに見える、エコの顔 |
| <input type="checkbox"/> 環境会計 | 環境への影響を「見える化」すると |
| <input type="checkbox"/> 地域コミュニケーション | ひとりひとりの元気のために |
| <input type="checkbox"/> KORE | |
| <input type="checkbox"/> KORE | 安全と安心をお届けするために |
| <input type="checkbox"/> 企業としての社会的責任 | 親しまれ信頼され続ける企業へ向けて |
| <input type="checkbox"/> コカ・コーラシステム | 北の大地とともに成長する企業として |
| <input type="checkbox"/> 工場見学/プロフィール | 「さわやかさ」を身近に感じてほしい |

Q3 どのようなお立場でお読みになりましたか？

- | | | |
|--|---|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> お客さま | <input type="checkbox"/> お取引先 | <input type="checkbox"/> 株主・投資家 |
| <input type="checkbox"/> 企業・団体のCSRご担当者 | <input type="checkbox"/> 行政関係 | <input type="checkbox"/> NGO/NPO |
| <input type="checkbox"/> 当社グループ社員・家族 | <input type="checkbox"/> 当社グループの事業所近隣の方 | <input type="checkbox"/> 学生 |
| <input type="checkbox"/> 研究・教育機関 | <input type="checkbox"/> 報道関係 | |
| <input type="checkbox"/> その他() | | |

Q4 その他、ご意見・ご感想などご自由にご記入ください。

◆ご協力ありがとうございました。差し支えなければ下記もご記入ください。

- | | | | | | |
|---------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 性別/ <input type="checkbox"/> 男性 | 年齢/ <input type="checkbox"/> 16歳未満 | <input type="checkbox"/> 16～20歳 | <input type="checkbox"/> 21～25歳 | <input type="checkbox"/> 26～30歳 | <input type="checkbox"/> 31～40歳 |
| <input type="checkbox"/> 女性 | <input type="checkbox"/> 41～50歳 | <input type="checkbox"/> 51～60歳 | <input type="checkbox"/> 61～70歳 | <input type="checkbox"/> 71歳以上 | |

アンケート送付先

北海道コカ・コーラ ボトリング株式会社 広報・CSR推進部
〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
TEL (011) 888-2135



011-883-0249